

(作成年月日) 2026年1月23日

臨床研究に関する情報

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和5年3月27日一部改正。)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[研究課題名]

胆道鏡下結石破碎術における視野改善効果の人工知能(AI)を用いた客観的定量的評価研究

[研究の目的]

【背景】 総胆管結石などの治療において、直接胆管の中を観察しながら結石を砕く「経口胆道鏡下電気水圧衝撃波結石破碎術(EHL)」は非常に有効な治療法です。しかし、結石を砕く際に発生する破片や泥が舞い上がることで視野が悪くなり、治療時間が長引いたり、安全な視野確保が難しくなったりすることが課題でした。近年、視野を確保するために特殊な医療用ゲルを使用する方法が考案されていますが、その有効性を客観的に証明したデータは十分にありません。

【目的】 本研究では、最新の人工知能(AI)技術を用いて、治療中の内視鏡動画を解析します。従来の方法(生理食塩水による洗浄)と、新しい方法(高粘度ゲル浸漬法)の間で、どちらがよりクリアな視野を維持できていたかを客観的数値として比較・評価することを目的としています。本研究の成果は、将来的に同様の治療を受ける患者さんの安全性向上や、より効率的な治療法の確立に役立つことが期待されます。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2021年11月1日～2025年6月30日の間に、当院において経口胆道鏡を用いた結石治療(EHL)を受けられた患者さん

○利用する情報

カルテ上の診療情報(年齢、性別、結石の大きさ・数、治療内容、使用したデバイスなど)および、内視鏡検査中に記録された動画データ。

【解析方法】 当院の倫理委員会の承認を得た上で、患者さんの個人情報削除し、誰のデータかわからないように加工(匿名化)した状態で解析を行います。動画データからAI(ディープラーニング)が「視野の良し悪し」を自動判定し、ゲルを使用した群と使用していない群で比較検討を行います。

○上記情報の利用開始予定日

倫理委員会承認日

[研究責任者]

香川大学医学部附属病院消化器内科 講師 鎌田 英紀

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

住 所：香川県木田郡三木町池戸 1750-1

施設名：香川大学医学部附属病院消化器内科

担当者：鎌田 英紀

電 話：087-891-2156 FAX：087-891-2158